

# 令和8年度 中学部 教育計画

心と身体が変化する青年期を考慮しながら、小学部での積み重ねを大切にし、一人一人の生徒の発達に応じて資質・能力の伸張を図るために以下の目標をおく。

## 1 教育目標

### (1) 準ずる教育課程

- ・健康・安全に関し自己管理できる習慣を育てる。
- ・自然や文化に親しみ、豊かな情操を養う。
- ・学力の基礎・基本を定着させ、自ら学ぼうとする力と生活の中で活用する力を育てる。
- ・集団活動を通してコミュニケーション力を培い、社会参加していく力を育てる。

### (2) 知的障害を併せ有する生徒の教育課程

- ・健康・安全に関し、生活リズムや生活習慣を整える。
- ・自然や文化に親しみ、豊かな情操を養う。
- ・見通しのもてる繰り返しの活動を行うことで、学習の基礎的な力や態度を身に付け、人や物事に意欲的に関わろうとする力を育てる。
- ・集団参加の意識を向上させ、それぞれの生徒に合ったコミュニケーション力を伸ばす。

### (3) 自立活動を主とする教育課程

- ・健康・安全に関し、生活リズムや生活習慣を整える。
- ・自然や文化に親しみ、豊かな情操を養う。
- ・見通しのもてる繰り返しの活動を行うことで、学習の基礎的な力や態度を身に付け、人や物事に意欲的に関わろうとする力を育てる。
- ・周囲の働き掛けを受け止め、それぞれの生徒にあった方法で自分を表現する力を育てる。

## 2 基本方針

- (1) 心身共に成長期にある生徒に対し、健康・安全・生命の尊さを基調に、豊かで意欲的な中学部の生活が送れるよう配慮する。
- (2) 小学部での生活経験をふまえ、実態に即した指導を目指しつつ、情緒の安定を基盤に、身辺生活・基本的生活習慣の形成、集団への積極的な参加能力など一層の充実を図る。
- (3) 一人一人に必要な自立活動を系統的、継続的に行う。
- (4) 指導内容の精選、重点化を図り、知的学習への意欲・社会的関心・道徳的判断力を高める。このため、指導形態や教材教具に創意工夫をこらす。

## 3 学習指導（学習形態）

### (1) 学級での指導

- ・発達の課題に応じてきめ細かい指導を行う。
- ・朝の会、帰りの会を行う。

### (2) 学年での指導

- ・学級活動は、生活年齢を基本とした学年集団で取り組み、相互の理解や協力、思いやりの心を育てる。ホームルーム活動や給食指導（摂食指導）及び一部の行事などの時間の指導にあたる。

### (3) グループでの指導

- ・生徒の課題に合わせて、学習するグループを編成している。複数の学年の生徒が一緒に学習することから、コミュニケーションを大切にして指導する。

### (4) 学習グループ編成

- ・各教科や自立活動では、個々の能力や興味・関心、発達課題に十分応えられるように、学部全体を縦割りにして課題別の学習グループを編成する。学習課題に応じた学習や集団活動を、効果的に進める。
- ・学習グループの編成は一人一人の教育的ニーズや集団の大きさ等を鑑み、7つのグループを編成する。

#### 4 特色ある学習

##### (1) 交流教育

- ・練馬区立小中一貫教育校大泉桜学園との交流及び共同学習では、学習グループ単位で活動を計画し、同世代の生徒との活動を積極的に楽しむなかで相互理解を深め、共同学習を行う。

##### (2) キャリア教育

- ・将来必要と力を分かり、日々の学習や生活に意識して取り組めるように、日々の活動の中で自分の役割を果たし、友達と協力し合う経験をする。
- ・将来社会参加しようとする意欲や力を育てるために、生活や学習の中で社会のルールやマナーを身に付ける。
- ・中学部卒業後の進路をイメージし、進路について知ると共に、進路に向けた準備をするために、身近な進路先である高等部を見学し、先輩や教職員の話を聞く、

##### (3) 学部行事

- ・年間3回程度、学部集会をもち、新入生歓迎会、卒業生を送る会などの内容で集会等を行う。また年1回の音楽集会を学部単位で行う。各学年・教科等で担当し、企画・進行する。

##### (4) 部活動

- ・前期は東京都障害者スポーツ大会およびパラスポーツ交流大会（ボッチャ部門）、後期はハンドサッカー大会に向けての練習と大会本番を部活動に位置づけて取り組む。

##### (5) 自立活動

- ・自立活動室での特設の時間を週2時間もち、自立活動部の教員やPT、OT、STなど専門家の助言を得て取り組む。